平成 26 年 11 月 05 日

姫社神社の姫社表示と姫(キ)氏

丸谷憲二

1　はじめに

姫社神社(岡山県総社市福谷字福中)の**姫社**という名前に注目している。上田正昭氏(大阪女子大学学長)の『東アジアと海上の道　古代史の視座』に、「十数年前に山陽放送の依頼で史跡ゆかりの伝承を調査している際に、岡山県総社市の秦村福谷、秦という地名も注目すべきであるが、姫社(ひめこそ)神社があるということを聞いた。この地の小幡さんというお家、古い居住者なのだが、そこへおじゃまして文書を見せていただいた。その文書にも室町時代にヒメコソ祭りの行なわれていたことが記されてあった。少なくとも**室町時代にはこの姫社神社の祭りがあったということは間違いない**。」とある。しかし、この古文書は公開されていない。

2　ヒメコソ伝承の分布　上田正昭説の検証

上田正昭説では、いわゆるヒメコソの伝承は佐賀県にも大分県にもある。『肥前国風土記』にも出てくるし、『筑紫国風土記』逸文にもみえている。『播磨国風土記』、『摂津国風土記』にも出てくる。しかし中間地域の伝承が無い。これはおかしいと思っていた。・・・この地は高梁川の上流に位置する。それを加えると**ヒメコソの分布は北九州とそれから岡山県、昔の吉備国、播磨というふうに瀬戸内海周辺に分布していることがわかる。**

この上田正昭説は吉備国(黄蕨国)伝承として疑問がある。検証したい。

2.1　姫社郷の由来　『肥前国風土記』

基肄郡　**姫社の郷**

此の郷の中に川あり、名を山道川といふ。其の源は郡の北の山より出で、南に流れて御井の大川に會ふ。昔者、此の川の西に荒ぶる神ありて、路行く人、多に殺害され、半ば凌ぎ、半ば殺にき。時に、祟る由を卜へ求ぐに、兆へけらく「筑前の國宗像の郡の人、珂是古をして、吾が社を祭らしめよ。若し願に合はば、荒ぶる心を起さじ」といへば、珂是古を覓ぎて、神の社を祭らしめき。珂是古、即ち、幡を捧げて祈禱みて云ひしく、「誠に吾が祀を欲りするならば、此の幡、風の順に飛び往きて、吾を願りする神の邊に堕ちよ」といひて、便卽て幡を挙げて、風の順に放ち遣りき。時に、其の幡、飛び往きて、御原の郡の姫社の杜に堕ち、更還り飛び来て、此の山道川の邊に落ちき。此に因りて、珂是古、自ら神の在す處を知りき。其の夜、夢に、臥機と絡垜と、儛ひ遊び出で來て、珂是古を厭し驚かすと見き。ここに、亦、**女神なることを識りき。卽て社を立てて祭りき**。爾より巳來、路行く人殺害されず。**因りて姫社といひ**、今は郷の名と為せり。

『肥前国風土記』の校注に、「姫社(ヒメコソ)の神の名による地名とするのであろうが、以上で**ヒメの説明は出来ているが、ヒメコソは説明できていない**」とある。

つまり、**「女神である」**としか書かれていない。校注には、「鳥栖市基里町姫方が遺称地」とあり、「姫方町に今、**姫古曽神社として復活**してある」と説明している。

2.2　風土記名と祭神名表記

風土記名	祭神名表記
『肥前国風土記』 基肄郡　姫社の郷	**女神**なることを識りき。卽て社を立てて祭りき。 因りて**姫社**といひ、
『筑後国風土記』逸文	筑紫君等が**祖甕依姫**(みかよりひめ)を祝と為して祭らしめき。
『播磨国風土記』 飾磨郡因達(いだて)里	神功皇后が「韓国を平けむと欲して、渡りましし時、御舟前に御しし**伊太氏(いだて)の神**、此処に在す。
『摂津国風土記』逸文 比売島松原	新羅の国に**女神**(ひめがみ)あり。「暫く筑紫の国の伊波比の比売島に住めりき。ついに摂津の比売島に来たとある。

3　『日本書紀(垂仁紀)』と『古事記(応仁記)』の比較

『日本書紀』(垂仁紀)は都怒我阿羅斯等(つぬがあらひと)伝承であり、『古事記』(応仁記)は天之日矛(あめのひぼこ)伝承である。**二人の妻の伝承が一つの神社の祭神の起源説話となっている。摂津国東生郡鎮座の比売許曽神社の祭神、比売語(碁)曽である。**

比売**語**曽社	日本書紀(垂仁紀)	意富加羅国（おほから）の王子　**都怒我阿羅斯等の妻** (白石から生まれた童女) 難波の比売**語**曽の社の神と為る。 豊国の国前郡に至りて比売**語**曽社の神と為る。 加羅の王子**都怒我阿羅斯等**の伝承に、**白石が童女**となり、阿羅斯等はこの童女と結婚しようとしたが、「求ぐ所の童女は、難波に詣りて、比売**語**曽社の神となる。または豊国の国前郡に至りて、また比売**語**曽社の神となりぬ。並に二処に祭ひまつられたまふといふ」とある。
比売**碁**曽社	古事記(応仁記)	**新羅の国主の子・天之日矛の妻** 難波の比売**碁**曽の社に坐す**阿加流比売神と謂ふ** 新羅の阿具沼のほとりで昼寝をしていた女に「日の輝虹の如く、その陰上を指し」、女は妊娠して赤玉を生んだ。　この**赤玉は女となって**新羅の王子天之日矛の妻となる。ある日「吾が祖の国に行かむ」といって、小舟に乗って難波に来た。　「こは難波の比売**碁**曽の社に坐す阿加流比売神と謂う」と古事記にある。

比売**許**曽神社	大阪市東成区東小橋鎮座 (摂津国東生郡)	式内名神大社の論社。『大坂市史』は近世の創建とする。 三代實録に貞観元年(859 年)正月摂津國**下照比女神**授從四位下。 延長 5 年（927 年）の延喜式神名帳に、摂津國東生郡比売**許**曾神社名神大月次、相嘗新嘗。延喜式の四時祭の条には下照比売一座、或比売**許**曾社とあり、臨時祭の条にも比売許曾神社一坐、亦號下照比売とある。

3.1　祭神名の比較

神社名・祭神名	**表記**	
比売語曽神	比売**語**曽神	**都怒我阿羅斯等の妻**　（白石から生まれた童女）
比売碁曽社	比売**碁**曽神	**天之日矛の妻　阿加流比売神**（赤玉が女になる）
現在の神社名	比売**許**曽神社 下照比売命	現在の祭神名　下照比売命 これは、**日本書紀（垂仁紀）と古事記（応仁記）との違いによる混乱回避策**として延長 5 年（927 年）の延喜式神名帳記帳記載時に考案された神社名・祭神名であろう。

3.2　祭神　下照比売命

『古事記』では高比売命（たかひめのみこと）の亦の名が、下光比売命・下照比売命（したてるひめのみこと)。『日本書紀』では下照姫。亦の名は高姫、稚国玉。『先代旧事本紀』地神本紀では、下照姫命である。これは三代實録に貞観元年(859 年)正月摂津國**下照比女神**授從四位下とあり，この時に考案された祭神名であろう。

4　考察

風土記名と祭神名表記からわかるように、上田正昭説は**ヒメコソを「女神」と定義**しているにすぎない。『風土記』の祭神名の調査が行われていない。**重要なのは記紀への記載の有無**である。

神社名	所在地	祭神名
比売語曽社	大分県東国東郡姫島村	比売**語**曽神
比売許曽神社	大阪市東成区東小橋 	**下照比売命**
媛社神社	福岡県小郡市大崎 1	媛社神（ひめこそ）と織姫神。

姫古曾神社	佐賀県鳥栖市姫方町 	原初　織女神(たちばなひめ)
姫社神社	総社市福谷字福中 	岡山県神社庁は比売**語**曽神表記であり、「姫社神社由来」には「姫社の姫とは天之日矛の妻　阿加流比売神」とある。 岡山県神社庁説では比売**語**曽神であり、**都怒我阿羅斯等の妻**となる。祭神が比売**碁**曽神であれば、**天之日矛の妻　阿加流比売神**となる。祭神名に混乱が見られる。これは近年の創作であろう。
鴨神社	岡山県浅口市鴨方町鴨方	鴨神社祭神の一柱に**下照姫命**とあり、中世の祭神追記と推定する。

4.1　姫大神と姫神

神社の祭神に姫神、姫大神がある。八幡社は比売大神と表記している。比売大神は**八幡神の顕われる以前の古い神、地主神**である。**吉備国の地主神は姫(キ)氏の大神であり、姫大神である**。岡山県神社庁の祭神名調査には**総社市の姫大神**が含まれていない。幸地山神社に注目したい。邑久郷の隣が太伯郷である。**太伯郷で魏志倭人伝の邪馬台国と直結**する。

祭神名	神社名	鎮座地
姫大神	春日神社	岡山市北区七日市西町 4-13
比め大神	八幡神社	倉敷市酒津 1115
姫大神	春日神社	倉敷市浜町 1-4-1
比賣大神	**化氣神社**	加賀郡吉備中央町案田 5
比賣大神	八幡宮	久米郡美咲町江与味 1191
姫大神	春日神社	備前市日生町日生 1180
比賣大神	**牛窓神社**	瀬戸内市牛窓町牛窓 2147
比め大神	大富八幡宮	瀬戸内市邑久町大富 826-1
姫大神	**幸地山神社**	岡山市東区邑久郷 1328
姫大神	春日神社	瀬戸内市牛窓町長浜 914

姫大神	**殿上西神社**	備前市佐山 219
比賣大神	宇佐八幡宮	瀬戸内市長船町服部 129
姫大神	宇佐八幡神社	井原市美星町黒忠 3430
比賣大神	土居神社	美作市土居 581
比賣神	甲山八幡神社	井原市西江原町 526-2
比賣神	春日神社	岡山市東区瀬戸町宿奥 1049

5　まとめ

① 国書である『古事記』と『日本書紀』の記録の正確度をとわれる伝承説話である。白石と赤玉の違いが、**都怒我阿羅斯等と天之日矛の違いとなる。**

② 『吉備郡史下巻』の江戸時代の神社に『吉備郡神社誌』所載の神社を表示すとして、姫社神社　祭神・比売**語**曽神とある。神社の写真説明は『**姫古**曽神社』と佐賀県鳥栖市姫方町の神社名と同一である。『岡山県神社誌』にも「比売**語**曽神とあり、創建年代、由緒等は不詳」とある。比売**語**曽神であれば**都怒我阿羅斯等の妻**となる。しかし、「姫社神社由来のこと」に「姫社の姫とは**天之日矛の妻　阿加流比売神**」とあり**祭神名が混乱している。**

③ 上田正昭説「ヒメコソの分布は北九州とそれから岡山県、播磨というふうに瀬戸内海周辺に分布していることがわかる。」は祭神の調査不足である。姫神でありヒメコソではない。ヒメコソ研究で知られる瀧川政治郎説、今井啓一説にも姫社神社は収録されていない。

④ 『総社史誌通史編』には、延宝 3 年(1675 年)姫社　荒村に鎮座と記録されている。『総社史誌通史編』に寛文 7 年(1667 年)の記録がある。「岡山藩領備中山北村々の神社整理」として、寄宮名「**姫大神宮**」(秦下村)と八幡宮(地頭片山)である。

⑤　姫社神社(総社市福谷字福中)は『日本書紀』や『古事記』に記録されていない。記録されていない理由は姫社神社の姫社とは、「姫(キ)氏の社」の意である。近くに**鬼(キ)の城があり、呉国からの渡来人である「姫(キ)氏」の記録を消す為**に、比売**語**曽神を祭神に持ってきている。

⑥　**姫社神社の祭神は「周文王姫氏」であり姫大神と表記**される。『総社史誌通史編』の**寛文 7 年(1667 年)の記録、寄宮名「姫大神宮」が正式な祭神名**である。

6　参考文献

①　『東アジアと海上の道　古代史の視座』1997 年　明石書店
②　『上田正昭著作集』第 5 巻『東アジアと海上の道』平成 11 年　角川書店、
③　『日本神社辞典』　平成 13 年　神社新報社
④　『日本古代神祇事典』平成 12 年　中日出版社
⑤　『岡山県神社誌』岡山県神社庁
⑥　『総社史誌　通史編』平成 10 年　総社市
⑦　『総社史誌　近世資料編』　平成 2 年　総社市
⑧　**『風土記』**日本古典文学大系 2　昭和 33 年　岩波書店
⑨　**『古事記祝詞』**日本古典文学大系 1　昭和 33 年　岩波書店

⑩　『日本書紀上』日本古典文学大系 67　昭和 42 年　岩波書店
⑪　『比売許曽神社』http://kamnavi.jp/ym/hiboko/himekoso.htm
⑫　『比売語曽神社』http://www.genbu.net/data/bungo/himekoso_title.htm
⑬　『姫社神社』http://kamnavi.jp/ym/hiboko/kibihime.htm
⑭　『姫社神社』http://www7a.biglobe.ne.jp/~nakanishi/kumakaihou16.pdf
⑮　『野馬台詩の謎　歴史叙述としての未来記』小峰和明　2003 年　岩波書店
⑯　「東海姫氏国　考　承平の日本紀講書をめぐって」神野志隆光
　　『論集神代文学　第二十六冊』万葉七曜会　2004 年　笠間書店
⑰　『日本の神々　神社と聖地 3』谷川健一編　1984 年　白水社
⑱　『風土記逸文注釈』上代文献を読む会編　2001 年　翰林書房
⑲　『吉備郡史下巻』永山卯三郎　昭和 46 年　名著出版
⑳　『神道史大辞典』2004 年　吉川弘文館